

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 株式 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

1000 円からの資産運用  
**ありがとう投信**  
Arigato Asset Management Inc.

## 今月のダイジェスト

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員

### < 運用成績等 >

- ・ ありがとうファンドは 5.2% (09/11/02 ~ 09/12/01)。
- ・ TOPIX(日本) 6.1%、MSCI・WI(先進国)+4.1%、MSCI・EM(新興国)+4.3%、ドル円 4.2%円高。
- \* MSCI :モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル。世界で広く使われている株価指数を算出している会社。騰落率はドルベースの net 指数で計算。

### < 運用状況 >

- ・ 11 月は海外株ファンド 3 本とコモンズ 30 ファンドを少しずつ買い増し。
- ・ 海外ものは引き続き堅調、国内ものは総じて苦戦。

### < 今後の方針 >

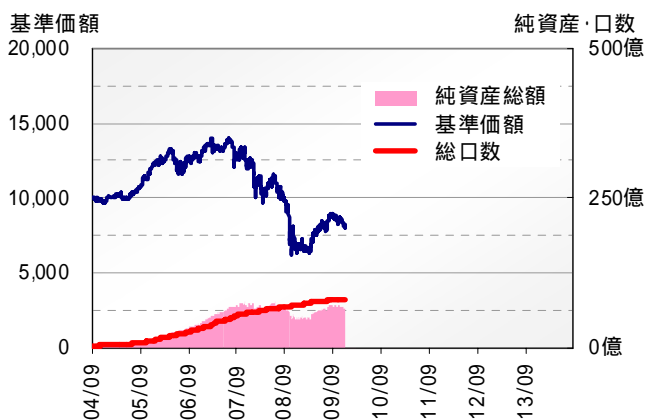
- ・ 引き続き厚めのキャッシュポジションによるリスク軽減を意識。
- ・ 海外株ファンド中心に慎重に少しずつ買増していくことを検討。



CIO(最高投資責任者)  
岡 大

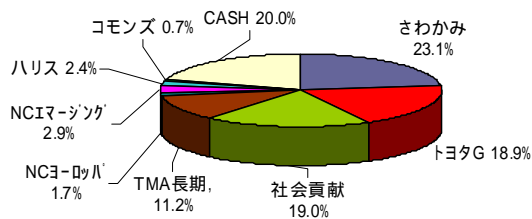
基準価額	純資産総額	受益権総口数	口座数	積立割合
7,941円	64億42百万円	81億13百万口	5,574	47.0%

基準価額・純資産総額の推移

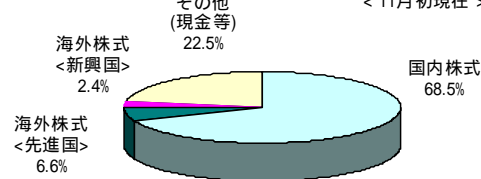


< 総口数は設定来 62 ヶ月連続純増 >

組入れファンドの比率 < 11月末現在 >



ありがとうファンド全体(各ファンドの合計)の資産配分状況 < 11月初現在 >



1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来	年率複利( )
5.7%	1.2%	+16.8%	37.2%	20.6%	-4.30%

「年率複利」とは、設定から現在まで運用を行った結果を、複利で換算した場合に何%でまわっていたかで表したものです。過去の実績値であって将来の成績を保証するものではなく、また個々のお客様ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

### 「投資信託説明書(交付目論見書)を改訂しました！」

先月 11 月 30 日に有価証券届出書を関東財務局に提出したことに伴いまして、『ありがとうファンド』の投資信託説明書(交付目論見書)を改訂致しました。投資信託説明書はホームページのこちら  
(<http://www.39asset.co.jp/pdf/mokuromi0912.pdf>) に掲載されておりますのでご覧ください。

ありがとう投信 カスタマーサービス部

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 株式 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

1000 円からの資産運用  
ありがとう投信  
Arigato Asset Management Inc.

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員

## 【運用状況のご報告等】

11 月の相場は、月の中旬までは小幅のもみ合いを続けていましたが、その後、少し下向き加減となったところで月末にかけて『ドバイショック』があり、日経平均で 9000 円の近辺まで下落しました。

ドバイショックとは、UAE(アラブ首長国連邦)のドバイ政府系企業であるドバイ・ワールドが債務返済の延期を要請すると発表したことを受けて、関係の深い欧州金融機関等に対する不安から世界中に信用不安が広がったことをさします。しかし、サブプライムのときは違って「誰がどれだけ不良債権をもっているかわからない」という性質の話ではありませんし、ドバイのバブル崩壊も既に周知の事実でしたから直接の影響は限定的なものにとどまり、とりあえず大きな波乱にはいたりませんでした。

これは簡単に言ってしまうと、私たちがずっと「米国や欧州の金融機関の不良債権問題は根本的には全く治癒していない(悪くいえば隠しているだけ)」と申し上げてきたことの一端が明らかになっただけのことだと思います。ありがとうファンドでは、それに起因して訪れるであろう荒れ相場に対処するために厚めのキャッシュポジションを維持してきているのですから、これはまさに想定範囲内。逆に、急激な下落があるならば、そこは買っていききたいところです。

ただし、直近の、新興国市場を中心とする海外株式などの活況は、各国がかつてないほどの規模で金融市場に資金を供給してお金がジャブジャブになっていることからくる『過剰流動性相場』といわれるものである可能性が高いです。そして、もしも投資家がドバイの件をきっかけにして資金をリスクから徐々に遠ざけようとし始めると、一旦はこれらの市場が沈静化する可能性も考えられます。(もちろん、リスクから遠ざかるうとする資金の内のいくらかが、消去法的にでも日本市場へ向いてくることは、これも十分にあり得ることだと期待していますが。)

ですから、海外株に買い出動をするとしても慌てる必要はなく、状況を見ながらゆっくり少しずつ…結局これも今までのスタンスの継続ということになります。ということで、11 月にはニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA、ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA、ALAMCO ハリス グローバルバリュー株ファンド 2007、の海外株ファンド 3 本と、10 月から組入れ始めたコモンズ 30 ファンド、計 4 本をそれぞれ少しずつ買い増しました。前のページの円グラフを見ていただいても、未だほとんどわからない程度の動きですが、今後も、相場の急変がなければ、同じようなスタンスを継続していく予定です。

さて、早いもので暦は 12 月に入り、今年も残すところひと月となりました。年の初めには、今年の運用方針として「干支のウシのように辛抱強く、つまづかないようにじっくりと、買い増しを続けていきます」とレポートに書きましたが、覚えていらっしゃるでしょうか。そして、干支に関する昔話の中の牛にならって「自分の性質をしっかりと把握し、それに基づいて人一倍早く行動を起こし、さりとしてあせらず淡々として、小さなことには全く動じない」ことを、私たちの今年の行動テーマとしてまいりました。

今年の実際の相場では、3 月の最大の落込みは、厚めの現金比率が功を奏して何とかつまづかないように通り過ぎることができました(昨秋の安値までも下がりはせんでした)が、それは何よりも「辛抱強くじっくりと」構えてくださったお客様のお蔭でした。いつも本当にありがとうございます。これからの道のりも、お客様と息を合わせて、より良いパフォーマンスをあげていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

岡 大 CIO(最高投資責任者)

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

1000 円からの資産運用  
**ありがとう投信**  
Arigato Asset Management Inc.

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員

## 組み入れファンドの運用状況

### さわかみファンド

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-7.7%	-0.5%	15.6%	-10.9%

### トヨタグループ株式ファンドF (適格機関投資家専用私募)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-7.2%	-2.9%	29.1%	-8.0%

### 社会貢献ファンド (適格機関投資家専用)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-7.0%	0.6%	16.5%	-19.8%

### TMA 長期投資ファンド (適格機関投資家限定)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-2.0%	4.9%	19.9%	-24.5%

### ニッポンコムジェスト・ ヨーロッパ・ファンドSA (適格機関投資家限定)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-3.3%	9.2%	24.8%	-24.0%

### ニッポンコムジェスト・ エマージングマーケット・ファンドSA (適格機関投資家限定)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-2.7%	8.0%	50.5%	-12.5%

### ALAMCOハリス グローバルバリュー株ファンド2007 (適格機関投資家専用)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-4.0%	17.1%	42.6%	-14.7%

### コモンズ30ファンド (適格機関投資家用)

騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-2.7%	-	-	-4.1%

### 株式組入上位5銘柄

	銘柄	コード	業種	組入比率
1	商船三井	9104	海運業	3.57%
2	花王	4452	化学	3.12%
3	パナソニック	6752	電気機器	3.06%
4	セブン&アイ・ホールディングス	3382	小売業	3.06%
5	リコー	7752	電気機器	3.04%

上記比率は、純資産総額に対する比率です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	コード	業種	保有比率
1	トヨタ自動車	7203	輸送用機器	50.51%
2	デンソー	6902	輸送用機器	16.47%
3	豊田自動織機	6201	輸送用機器	5.96%
4	アイシン精機	7259	輸送用機器	4.75%
5	豊田通商	8015	卸売業	3.16%

個別銘柄の保有比率は、現物株式の組み入れ = 100% とした各銘柄の比率です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	コード	業種	構成比率
1	クラレ	3405	化学	3.4%
2	堀場製作所	6856	電気機器	3.4%
3	伊藤園	2593	食料品	3.0%
4	ダイセキ	9793	サービス	2.9%
5	キヤノン	7751	電気機器	2.9%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	業種	比率
1	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	3.9%
2	BERKSHIRE HATHAWAY INC-CL A	アメリカ	保険	3.3%
3	キーエンス	日本	産業用エレクトロニクス	3.2%
4	テルモ	日本	医薬品・ヘルスケア	3.2%
5	花王	日本	家庭用品	3.1%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	MSCI業種分類	比率
1	DANONE	フランス	生活必需品	7.0%
2	CAPITA GROUP PLC	イギリス	資本財・サービス	6.8%
3	SYNTHES INC	スイス	ヘルスケア	6.8%
4	RECKITT BENCKISER	イギリス	生活必需品	6.8%
5	ROCHE HOLDING AG	スイス	ヘルスケア	6.4%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	MSCI業種分類	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	台湾	情報技術	4.6%
2	ANGLOGOLD ASHANTI LTD	南アフリカ	素材	4.0%
3	GOLD FIELDS LTD	南アフリカ	素材	3.8%
4	JBS SA	ブラジル	生活必需品	3.6%
5	MTN GROUP LTD	南アフリカ	電気通信サービス	3.5%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

### マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	業種	構成比率
1	INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.1%
2	FRANKLIN RESOURCES INC	アメリカ	各種金融	4.3%
3	HEWLETT PACKARD CO	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	4.2%
4	CIE FINANCIERE RICHEMON-BR A	スイス	耐久消費財・アパレル	4.2%
5	CATERPILLAR INC	アメリカ	資本財	3.9%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

### 組入れ銘柄の一部をご紹介します

銘柄	7267
ホンダ	7267
夢と技術で、難局をチャンスに変える	
お客さまに自動車のみならず、夢の詰まったモビリティ(移動体)を適正価格で提供。歴史的に難局に強く、創業から脈々と流れるチャレンジ精神で、持続可能な成長を遂げていく。	

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

月次レポート 愛称:ファンドの宝石箱

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

1000 円からの資産運用  
ありがとう投信  
Arigato Asset Management Inc.

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員



## 村山's Eye

『日本の株式市場は新興国市場になる!?!』

このページの内容はあくまでも村山甲三郎の個人的な意見であり弊社の会社としての考えと異なっている場合がありますので予めご了承下さい。

しばらく前の東京セミナーでお話をした時に、「日本の株式市場は新興国市場になる」と発言しました。一部の方からはその場で「どういう意味ですか?」というご質問をいただきました。今月はこのスペースを使ってその意味するところをご説明したいと思います。

新興国市場という時に自分が意味する事は2つあります。一つは政治情勢を含めた不確実性が先進国よりは高い事、もう一つは先進国よりも高い成長を遂げる可能性があることです。(たとえば60年前には日本は間違いなく新興国市場でした)

次に一般的なリスクの高さ(変動の大きさ)と期待できるリターンとの関係を考えてみましょう。期待できるリターンが高い投資は一般的にリスクも高いと考えられています。今注目されている BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)などの新興国市場は期待リターンも高いのですがリスクも高くなります。

今年、日本の政権が変わりました。今まで零だった政治的な変化の可能性が出ることは、過去と比較すれば大きな変身を意味します。つまり投資の世界で考えると日本は「リスクの低い国」から「リスクの高い国」に変わったわけです。この変化の変化度を考えて「新興国と同じになった」と申し上げたのです。

では「高い成長の可能性」はどうでしょうか?この点については日本のマスコミはとっくに答えを出しています。「日本は少子高齢化だから成長できっこない...」日本人が自分の国の事をそう思っていれば海外の投資家もそう考えます。日本経済は成長しない...

しかしこの点は実は最初の「変化のなさ」と密接に結びついているのです。つまり「根本的なやり方を変えない(自ら変えることができない)社会」は成長などできるわけではないのです。逆にいえば変化ができないから成長しないのであって、変える勇気があれば成長できます。変化と成長は裏表の関係なのです。

ではどんなふうに、どんな分野が成長するのでしょうか?

堺屋太一さんは「高齢化はチャンスだ」とおっしゃっています。ものの見方を柔軟にする頭の柔らかさと怖がらずに一步踏み出す勇気があれば社会は変化できます。それが今まで考えられなかった成長に結びつくと思います。

いま新興国と言われている国々のなかには「新興」ではない国が多くあります。長い歴史があったり、国によっては大いに栄えた時期もありました。ただどの国にも問題点がありました。それが変わってきました。そして今の新興国ブームに結びついています。つまり社会として変化できるかどうかが出発点です。変化すればよい結果が生まれるという保証はありません。しかし変化するエネルギーがなければ廃れるだけです。

「日本が新興国になる」と申し上げたのはそういう意味です。

エグゼクティブアドバイザー  
村山 甲三郎

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

## 特集 日本株はどのくらい安い?

このページの内容は、投資中級者向けの内容となっています。そのため本文中の用語や内容が、投資初心者の方にとって難しい部分もあるかもしれません。予めご了承ください。

世界の主要株式市場の中で、日本株だけパッとしない、という事態。これほど顕著になってくると、さすがに日本株って安いんじゃないか、お買い得なんじゃないか、という声もしばしば聞かれるようになりました。今日は日本株の「安さ」について考えてみたいと思います。

株価の高い・安いはもちろん株価だけを見てわかるわけではありません。収益、配当、資産などに対して、株価がどのような水準にあるか、それを株価の評価基準とするのが普通です。また、将来期待される利益成長や配当収入を数式化して、理論株価を算出するやり方もあります。市場全体を見る場合と個別株の場合とでは、見える景色は必ずしも同じではありませんが、ここでは市場全体を見て行くことにします。

### 1. まず最もなじみ深い指標である P E R

**[株価 / 一株当たり利益] または、[時価総額 / 純利益]** でも同じことです。

新聞に毎日掲載される、東証一部上場企業の今期予想 P E R は約 32 倍で、決して安い水準とは言えません。金融危機後の不況で特に収益が落ち込んでいるから...といえはその通りなのですが、他の諸株式市場の P E R はほぼすべて 20 倍以下、高いところでも 20 倍台前半に収まっています。2009 年度の企業業績は前年度からは大きく改善が予想されますが、2007 年度と比べるとまだ 4 割ぐらいの水準です。環境が良くなって今期の倍くらいまでの回復が視野に入ってくれば 16 倍ですから、やっと世界の標準レベルに近づくわけです。

P E R の逆数は「益回り」と呼ばれ、株式投資した額に対して企業のあげる利益がどれだけかを表わす収益率です。P E R 32 倍なら 3.1% とかなり低く、魅力的な投資対象とは言えませんが、16 倍なら 6.2% で、やっと他の投資対象と比較できる、という感じになりますね。

### 2. 次は純資産株価倍率 (P B R)

**[株価 / 一株当たり純資産]、または [時価総額 ÷ 純資産]** で表わされます。

日本株が安い、と言われる主な根拠はこれです。P E R と同様、新聞に掲載されている数字をそのまま採用すると、東証一部上場企業全体で、1.1 倍ぐらいです。国際比較をすると、人気化している新興国や資源国、米国などは 2 倍を超えており、その他の先進国は大体 1.5 倍から 2 倍の間に収まっているようです。確かに日本株の安さは際立っています。低い理由は色々ありますが、あえて一言でいえば日本経済に対する期待の低さということでしょうか。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

### 3. 時価総額 = 純資産 + 将来の純利益

純資産は株主資本とほぼ同じで、文字通り株主が所有する財産です。また、事業からあがる純利益は株主のものになるわけです。ですから、株式の価値はこの二つを合わせたものだ、と考えることにします。

一部上場企業全体(金融を除く)の業績を整理してみると、

	2008 年度実績	2009 年度
売上	617 兆円	とりあえず横ばい(伸びても数%)
純利益	1.3 兆円	8 兆円(予想 PER から逆算)
純資産	220 兆円	売上と同様横ばい

そして時価総額は 約 240 兆円 (11 月末)です。

ということは、[将来の純利益]に当たる部分は

$240 - 220 = 20$  ... 20 兆円ということになります。

ところが、今期あと半年もすれば、かなりの確率で 8 兆円くらいの利益が上がる事が分かっているわけですよ。その次の期は増益が続くと予想されていますし、たとえ利益横ばいが続いても、3 年分の利益( $8 \times 3 = 24$  兆円)でおつりが来てしまうこととなります。企業活動が将来にわたって続くならば、時価はやはり安すぎるような気がしませんか。

この状態をあえて解説すると、投資家は、

**利益がどんどん減っていくと思っている。または、**

**利益が上がるまで 3 年間も待ってられない、と考えている。または、**

**純資産の価値が減っていくと思っている。**

といったところでしょうか。

3 番目は強いデフレ期待ということですね。最近「デフレ宣言」が出てきたので、これが案外当たっているかもしれせん。

もちろん、私自身はここに出てくる「投資家」ほど悲観的ではありませんが、

投信企画運用部 ファンドマネージャー  
川元 由喜子



## ホルダーズミーティングのご報告

10 月にホルダーズミーティングを全国 3 都市(神戸、名古屋、東京)で開催いたしました。おかげさまで沢山のお客様にご参加頂きました。誠にありがとうございました。

当日は 3 部構成で、第 1 部が「ありがとう投信からお客様へ」と題して、運用や販売状況のご説明を、第 2 部がお客様を 5 人～10 人に分け社員も加わってのグルーブトーク、第 3 部を質問コーナーとしました。

第 1 部の内容を少しご紹介しますと、個人にとっての適切な資産配分について、「一般的には年齢が高くなるにつれて株式の割合を意識的に減らしてゆくべきなどと説明されるが、私たちは、その時々々の経済状況に応じた誰にとっても適切となる配分があると考えており、ありがとうファンドもそのような資産配分を目指している」との説明がファンドマネージャーからありました。



また、ありがとうファンドが目指す運用のイメージとして「株価の上昇局面でより大きな値上がりを追及するのではなく、むしろ下降局面でもなるべく小さな値下がりにとどめるような運用を目指すことで、お客様が長期で安心して持っていられるファンドを目指す。」という説明にはしきりに頷いていらっしゃる方がおられました。



第 2 部では普段他の投資家の方と話す機会がないお客様が多い中、お客様同士の会話の中からヒントを得たり、普段疑問に思っていることを直接社員に聞いてみてスッキリされたという方など、初めての企画でしたが、非常に好評を得ました。

最後に第 3 部で出た質問とその答えで主なものを挙げてみましたのでご参考にしてください。

### Q. 中国などの新興国株の組入れが少ないが？

A. 一つには、中国を代表とするような新興国の市場が、ジャブジャブの資金の流入によってバブルを形成している可能性が高いと考えているからです。バブルならば必ずどこかで破裂します。

加えて、サブプライム問題に端を発した不良債権問題が世界的に未解決であって、まだまだ波乱が予想されると私たちは考えているのですが、こういう不安定な局面ではカントリーリスク(その国に固有の「何が起こるか分からない」というリスク)が高まっていると判断しているためです。

ただし、世界中を対象にして長期投資をしていくという観点からは、新興国の成長を取り込むことは必要だと考えているので、今後、ゆっくり少しずつ新興国株のウェイトを高めていくことは視野に入れています。

## Q. 日本株は長期的にみてどうなのか？

A. 日本経済全体で見ると、少子高齢化とか国の過剰債務とか、楽観できないような重要な問題が確かに存在していますから、日本株のインデックス投資のような方法ではパフォーマンスは上がりにくいかも知れません。しかし、個別の企業を見ていくと、そういった問題への対応も既にしっかりと考えて進めている企業が少なからずあり、ありがとうファンドではそういう銘柄をアクティブに選択するような日本株ファンドのみを組入れているので、一般論的な心配は当たらないと考えています。それに、日本全体を考えても、日本に蓄積されている技術やお金、成長エリアである東アジアとの近さなどを考えると、悲観し過ぎる必要はないと思います。

## Q. 今はインフレかデフレか、どちらか？

A. 面白いご質問です。確かに身の回りでは、一見すると下がっているようなモノの値段でも、実は量の方を減らして実質は値上がりしているというようなケースが少なからず見られますね。しかし、経済の状況という意味では、生産力も雇用も余剰傾向になっている現在は、やはりデフレの方が近いかと思います。



かつて例がないほど世界中でジャブジャブになっているお金を目の当たりにすると、政策担当者の脳裏に過去のハイパーインフレの記憶がよぎるのもわからないではないですが、ハイパーでないインフレなら経済成長にはプラスに働きますから、まずはデフレ回避の方に全力を注いで欲しいものです。

## Q. 資源や商品などへの投資の予定は？

A. 金などのモノそのものへの投資は、ファンドを通じても考えていません。そのモノの本質的価値は変わらずに需給だけで価格が決まるような対象は、長期投資の投資先としてふさわしくないからです。値動きだけに賭けるのは、いくら時間をかけてもそれは単なる『長期投機』です。

資源株への投資については、この 1 年以上ずっと検討を続けており、いくつかの運用会社にはリサーチのために訪問もしています。しかし、残念ながら、私たちが投資できる範囲には、優れたファンドが見つかっていないのです。ただし、今後、もしも良いファンドが見つければ、それを組入れる可能性はあります。

## Q. ホルダーとして相場に応じた適宜の売買が必要か？

A. (このご質問については先月の月次レポートの Q & A コーナーに詳しく書きましたので、そちらをご覧ください。「その必要はないようにしたい」というのが私たちの答えです。)

こういうご質問が多かったこと自体、昨年来の下落がお客さまに多大なご心配をおかけしたことのあらわれと真摯に受け止め、「ありがとうファンドを持っていれば安心だ」、「ありがとう投信と付き合えば安心だ」と皆様にも思っていたらよい、社員一同、今後より一層精進してまいります。

以上、簡単にホルダーズミーティングの内容をご報告しました。

今回のホルダーズミーティングはお客さまと運用会社との距離を縮める為に企画したものです。ご参加されたお客さまがそのように感じただけでしたら社員全員の喜びです。

なお、ホームページで東京開催の動画を 12 月中旬配信する予定です。お楽しみに。

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

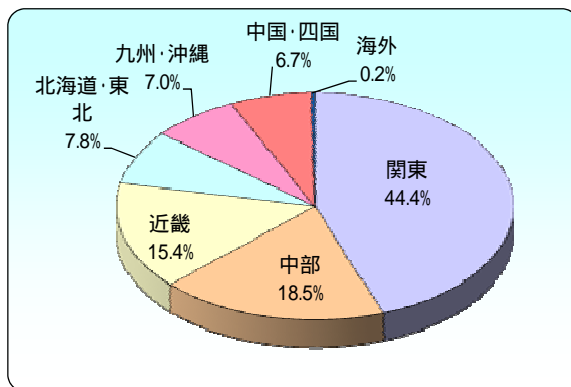
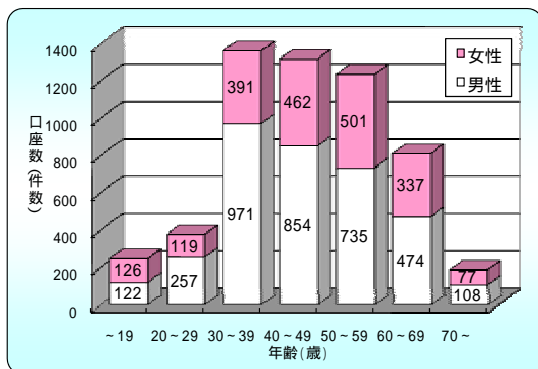
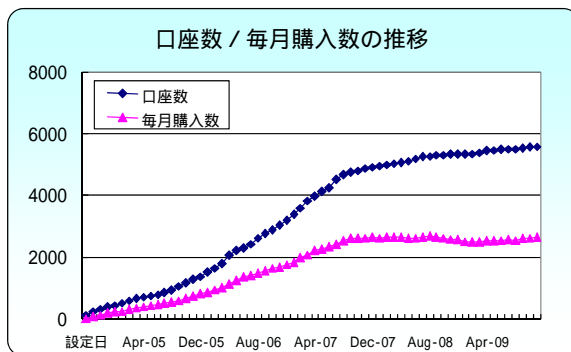
1000 円からの資産運用  
**ありがとう投信**  
Arigato Asset Management Inc.

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員

## ありがとう投信からのお知らせ

### 口座数の推移と年齢・地域分布

顧客数	前月比
5,574名	+27名
個人比率	毎月購入比率
99.3%	47.0%



### 毎月購入サービスのスケジュール

今後の毎月購入サービスになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取り扱いとなりますので予めご了承下さいませようお願い申し上げます。

	新規申込・口座変更	金額変更・中止	引落日	ファンド購入日(約定日)
平成22年1月分	受付終了	12月22日(火)	1月6日(水)	1月19日(火)
平成22年2月分	1月5日(火)	1月27日(水)	2月8日(月)	2月19日(金)

### 今月のトピックス

#### 年末年始の営業時間のお知らせ

年末年始の営業日は、年内は **12月30日(水)** まで、年始は **1月4日(月)** からとなります。営業時間は、これまで年末年始は半日営業日となっておりますが、東京証券取引所のシステムが刷新されて取引時間が 15 時まで延長されたことに伴いまして、今年の 12 月 30 日から通常営業日と同様に致します。

ファンド売買の当日受付分は 15:00 まで、会社の営業時間は 17:30 までになります。



まずはアクセス

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

月次レポート 愛称:ファンドの宝石箱

# ありがとうファンド

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ

第 64 号  
基準日  
2009 年  
11 月 30 日

1000 円からの資産運用

ありがとう投信

Arigato Asset Management Inc.

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号  
(社)投資信託協会会員



ありがとう便り【ボージョレ・ヌーヴォー解禁】(ホームページ 11 月 19 日掲載分)

本日ボージョレ・ヌーヴォーが解禁された。最近少しワインにはまっているので楽しみである。ボージョレ・ヌーヴォーと言えば、毎年解禁日にはニュースで報道されて有名であるが、今まではあまりワインに興味がなかったためあまり意識して飲んでいなかった。どんな味だったかよく覚えていない。今年は「50年に1度の出来栄」というので今までよりもさぞ美味しいのだろうが、比較できないのが残念である。

今年の輸入量はピークだった 2004 年に比べると約 6 割減だそうである。最近の消費低迷、低価格・節約志向を反映して通常 2300 円前後するボージョレ・ヌーヴォーをペットボトル詰めにしたたりして 1000 円以下の価格で提供する小売りも現れた。ペットボトル入りのワインはどうかと思うが、ペットボトルに入れると空輸してくときの輸送コストが削減できるので価格を安くできるという。ちなみにボージョレ・ヌーヴォーが一般のワインよりもちょっと高い理由は、出来たてを解禁日に間に合わせるために空輸してくるため輸送コストが高くなってしまふからだそうである。通常の船便を使えば時間はかかるけれど輸送コストをセーブできるのでもっと安くできるそうである。私もそうなのだが解禁日に飲みたいと思う人が多いから、輸送の速さと価格の安さの両立を求めて企業は知恵を絞るのだろう。いずれにせよ今日はボージョレ・ヌーヴォーを買って帰って味わってみようと思っている。

(S.H)

## 「ありがとうファンド」の概要

商品分類	追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	無期限
決算と収益分配	毎年 8 月 31 日(休業日の場合は翌営業日)
お申込単位	1,000 円以上 1 円単位
お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
ご解約単位	1 円以上 1 円単位
ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
委託会社 (販売会社)	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号(社)投資信託協会会員
受託会社	日興シティ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第 25 号(社)日本証券業協会会員

## 「ありがとうファンド」にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「ビジネスリスク」、「為替リスク」、「カントリーリスク」、「ファンド資産の流出によるリスク」  
当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。

## 「ありがとうファンド」にかかる手数料等

お申込手数料	手数料はありません。
ご換金(ご解約)手数料	手数料はありません。
信託財産留保額	信託財産留保額はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.945% (税抜 0.9%) の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.6% ± 0.3% (概算)] 当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出してあります。
その他の費用等	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。